

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-19130

(P2004-19130A)

(43) 公開日 平成16年1月22日(2004.1.22)

(51) Int.Cl.⁷

E O 4 F 19/02

E O 4 F 13/08

F I

E O 4 F 19/02

E O 4 F 13/08

E O 4 F 13/08

E O 4 F 13/08

Q

U

1 O 1 Q

1 O 1 T

テーマコード(参考)

2 E 1 1 O

審査請求 有 請求項の数 10 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号

特願2002-171871(P2002-171871)

(22) 出願日

平成14年6月12日(2002.6.12)

(71) 出願人 000110860

ニチハ株式会社

愛知県名古屋市港区汐止町12番地

(74) 代理人 100079142

弁理士 高橋 祥泰

(74) 代理人 100110700

弁理士 岩倉 民芳

(72) 発明者 肥海 聡芝

愛知県名古屋市港区汐止町12番地 ニチハ株式会社内

Fターム(参考) 2E110 AA57 AB04 AB14 AB26 BA12

BC02 DA08 DC15

(54) 【発明の名称】 オーバーハング部材及びオーバーハング部施工構造

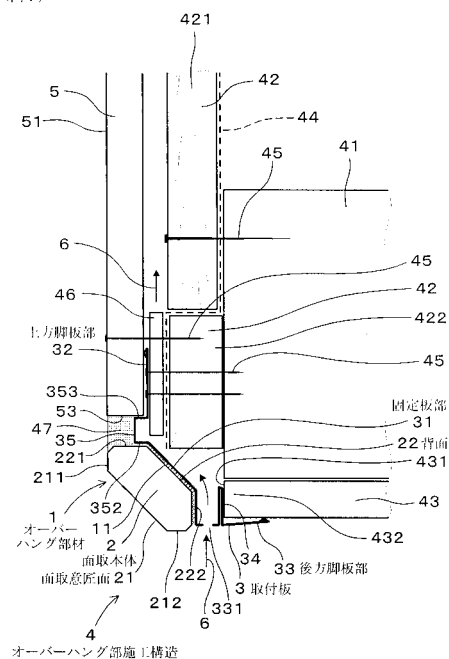
(57) 【要約】

【課題】 製造容易、安価かつ外観意匠性に優れたオーバーハング部材及びこれを用いたオーバーハング部施工構造を提供すること。

【解決手段】 建物のオーバーハング部の前方下端部に配設されるオーバーハング部材1。オーバーハング部材1は、一体的に形成された面取本体2と、該面取本体2に固定された取付板3とを有する。面取本体2は、オーバーハング部の外側に前方下方を向いて配される面取意匠面21と、面取意匠面21の反対側に形成された背面22とを有している。取付板3は、面取本体2の背面22に固定する固定板部31と、該固定板部31の上端から上方に延設された上方脚板部32と、固定板部31の下端から後方に延設された後方脚板部33とを有する。

【選択図】 図1

(図1)



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

建物のオーバーハング部の前方下端部に配設されるオーバーハング部材において、
該オーバーハング部材は、一体的に形成された面取本体と、該面取本体に固定された取付板とを有し、

上記面取本体は、上記オーバーハング部の外側に前方下方を向いて配される面取意匠面と、
該面取意匠面の反対側に形成された背面とを有しており、

上記取付板は、上記面取本体の上記背面に固定する固定板部と、該固定板部の上端から上方に延設された上方脚板部と、上記固定板部の下端から後方に延設された後方脚板部とを有することを特徴とするオーバーハング部材。

10

【請求項 2】

請求項 1 において、上記後方脚板部は、該後方脚板部の後端よりも前方に、上記建物の軒天材の前端面を当接させることが可能な軒天当接板部を、上方に向って立設してなることを特徴とするオーバーハング部材。

【請求項 3】

請求項 1 において、上記取付板は、上記後方脚板部の上方に、上記建物の軒天材の前端部を収容するためのソケット部を形成してなることを特徴とするオーバーハング部材。

【請求項 4】

請求項 2 又は 3 において、上記後方脚板部は、上記軒天当接板部又は上記ソケット部よりも前方に、通気及び水抜きのための開口穴を形成してなることを特徴とするオーバーハング部材。

20

【請求項 5】

請求項 1～4 のいずれか 1 項において、上記上方脚板部は、上記固定板部との間に、前方へ突出した横目地用突出部を設けてなることを特徴とするオーバーハング部材。

【請求項 6】

建物のオーバーハング部の前方下端部にオーバーハング部材を配設してなるオーバーハング部施工構造において、

該オーバーハング部施工構造は、上記オーバーハング部の構造躯体に下地材を介して、或いは下地材を介さずに上記オーバーハング部材及び該オーバーハング部材の上方に配された外壁板とを留め付けてなると共に、上記構造躯体の底面に軒天材を配設してなり、

30

該オーバーハング部材は、一体的に形成された面取本体と、該面取本体に固定された取付板とを有し、上記面取本体は、上記オーバーハング部の外側に前方下方を向いて配される面取意匠面と、該面取意匠面の反対側に形成された背面とを有しており、上記取付板は、上記面取本体の上記背面に固定する固定板部と、該固定板部の上端から上方に延設された上方脚板部と、上記固定板部の下端から後方に延設された後方脚板部とを有し、

上記オーバーハング部材は、上記取付板の上記上方脚板部において上記構造躯体に固定されていると共に、上記後方脚板部によって、上記軒天材の前端部を下方から被っており、かつ、上記面取本体と上記外壁板の外壁側端面との間には、目地処理材が配設してあることを特徴とするオーバーハング部施工構造。

【請求項 7】

40

請求項 6 において、上記後方脚板部は、該後方脚板部の後端よりも前方に、軒天当接板部を、上方に向って立設してなり、該軒天当接板部に上記軒天材の前端面を当接させてなることを特徴とするオーバーハング部施工構造。

【請求項 8】

請求項 6 において、上記取付板は、上記後方脚板部の上方にソケット部を形成してなり、該ソケット部に上記軒天材の前端部を収容してなることを特徴とするオーバーハング部施工構造。

【請求項 9】

請求項 7 又は 8 において、上記後方脚板部は、上記軒天当接板部又は上記ソケット部よりも前方に、通気及び水抜きのための開口穴を形成してなることを特徴とするオーバーハン

50

グ部施工構造。

【請求項 10】

請求項 6～9 のいずれか 1 項において、上記上方脚板部は、上記固定板部との間に、前方へ突出した横目地用突出部を設けてなり、該横目地用突出部は、上記面取本体の上端面と上記外壁板の下辺部との間に配置されていることを特徴とするオーバーハング部施工構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、建物におけるベランダ等のオーバーハング部の前方下端部に配設されるオーバーハング部材に関する。 10

【0002】

【従来の技術】

従来より、図 13 に示すごとく、建物におけるベランダ等のオーバーハング部の前方壁面に、外壁板 5 を配設してなる垂れ壁仕様のオーバーハング部施工構造 8 がある。

上記外壁板 5 は、上記オーバーハング部の構造躯体 41 に、縦胴縁等の下地材 42、通気用スペーサ 46 を介して固定されている。また、上記オーバーハング部の底部には、軒天材 43 が配設されている。

【0003】

ところが、上記オーバーハング部施工構造 8 は、斜め前方下方から、即ち屋外から通常の視線角度で見上げたとき、上記外壁板 5 の下辺部 53 が見えてしまう。また、上記オーバーハング部の前方壁面を構成する上記外壁板 5 の外壁意匠面 51 が、下端部で突然途切れてしまう状態となり、外観意匠性が低下するおそれがある。 20

【0004】

かかる観点から、図 14 に示すごとく、上記オーバーハング部の前方下端部に、縦断面 L 字形状のオーバーハング部材 9 を配設したオーバーハング部施工構造 80 がある。これにより、上記オーバーハング部の前方下端部においても、上記外壁板 5 の外壁意匠面 51 と同様の意匠面 95 を構成することができ、オーバーハング部施工構造 80 の外観意匠性を向上させることができる。

【0005】

該オーバーハング部材 9 は、例えば以下のごとく製造する。 30

まず、図 15 に示すごとく、窯業系外壁板などの板材 910 を切断して、適当な大きさに板片 91 を切り出す。次いで、図 16 に示すごとく、該板片 91 の一方の側端部 911 を斜めに切り落とし、表側面 912 及び裏側面 913 に対して約 45° の角度をなす切断面 914 を形成する。また、表側面 912 の端部 916 についても、欠け防止のため、面取りしておく。

【0006】

次いで、図 17、図 18 に示すごとく、2 枚の上記板片 91 の上記切断面 914 同士を突き合せ、2 枚の板片 91 の表側面 912 が略直角となるように接合する。このとき、2 枚の板片 91 の上記切断面 914 の間には、接着剤 92 を介在させる。これにより、上記 2 枚の板片 91 を接着する。 40

また、上記 2 枚の板片 91 の接合部 93 には、タッカー 94 を打ち込み、接合強度を確保する。

次いで、図 19 に示すごとく、上記接合部 93 の外側角部 931 を面取り切断し、該外側角部 931 の欠けを防止すると共に外観意匠性を向上させる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来のオーバーハング部材 9 は、上述のごとく、接着剤 92 を用いて 2 枚の板片 91 を接着する。そのため、接着養生の必要があり、製造に時間がかかる。また、2 枚の板片 91 の突合せ角度（例えば略 90°）を保持した状態で乾燥させるための 50

保持治具が必要である。

【0008】

また、上記接着剤92が接合部93からはみ出すこともあり、オーバーハング部材9の外観意匠性を低下させるおそれがある。それ故、この場合には、接着養生後に、はみ出した接着剤92を削り取る必要がある。

また、上述のごとく、上記接合部93にタッカー94を打ったり、上記接合部93の外側角部931を面取り切断する必要もある。そして、面取り面を後から補修塗装する必要もある。

【0009】

更には、上記板片91の表側面912に柄模様が形成されている場合に、その柄模様が上記接合部93の両側においてずれると、違和感を生じ、オーバーハング部材9の外観意匠性が低下するおそれがある。 10

また、それ故、2枚の板片91を接合するにあたっては、互いの柄模様がずれないように位置合わせを慎重に行う必要がある。

【0010】

また、上記オーバーハング部施工構造は、前方下端部が略直角状に形成されるため、緩やかな外観を表出することは困難であり、場合によっては外観意匠性を低下させる原因となる。

【0011】

本発明は、かかる従来の問題点に鑑みてなされたもので、製造容易、安価かつ外観意匠性に優れたオーバーハング部材及びこれを用いたオーバーハング部施工構造を提供しようとするものである。 20

【0012】

【課題を解決するための手段】

第1の発明は、建物のオーバーハング部の前方下端部に配設されるオーバーハング部材において、

該オーバーハング部材は、一体的に形成された面取本体と、該面取本体に固定された取付板とを有し、

上記面取本体は、上記オーバーハング部の外側に前方下方を向いて配される面取意匠面と、該面取意匠面の反対側に形成された背面とを有しており、 30

上記取付板は、上記面取本体の上記背面に固定する固定板部と、該固定板部の上端から上方に延設された上方脚板部と、上記固定板部の下端から後方に延設された後方脚板部とを有することを特徴とするオーバーハング部材にある（請求項1）。

【0013】

次に、本発明の作用効果につき説明する。

上記面取本体は、上述のごとく一体的に形成されている。そのため、上記面取本体の製造にあたっては、接合、接着の工程を必要としない。それ故、上記面取本体は製造が容易であり、その結果、オーバーハング部材の製造が容易となる。

また、上記面取本体は一体的に形成され、接合部を有しないため、外観意匠性に優れている。 40

また、上記オーバーハング部材は上記取付板を有するため、該取付板を介して上記オーバーハング部材を上記オーバーハング部に容易に施工することができる。

【0014】

また、上記面取本体は、上記面取意匠面を有しているため、該面取意匠面によって、上記オーバーハング部の前方下端部を面取りしたような外観に形成することができる。それ故、緩やかな印象を与える外観意匠性の高いオーバーハング部を構築することができる。

【0015】

以上のごとく、本発明によれば、製造容易かつ外観意匠性に優れたオーバーハング部材を提供することができる。

【0016】

第2の発明は、建物のオーバーハング部の前方下端部にオーバーハング部材を配設してなるオーバーハング部施工構造において、

該オーバーハング部施工構造は、上記オーバーハング部の構造躯体に下地材を介して、或いは下地材を介さずに上記オーバーハング部材及び該オーバーハング部材の上方に配された外壁板とを留め付けてなると共に、上記構造躯体の底面に軒天材を配設してなり、
該オーバーハング部材は、一体的に形成された面取本体と、該面取本体に固定された取付板とを有し、上記面取本体は、上記オーバーハング部の外側に前方下方を向いて配される面取意匠面と、該面取意匠面の反対側に形成された背面とを有しており、上記取付板は、上記面取本体の上記背面に固定する固定板部と、該固定板部の上端から上方に延設された上方脚板部と、上記固定板部の下端から後方に延設された後方脚板部とを有し、
上記オーバーハング部材は、上記取付板の上記上方脚板部において上記構造躯体に固定されていると共に、上記後方脚板部によって、上記軒天材の前端部を下方から被っており、かつ、上記面取本体と上記外壁板の外壁側端面との間には、目地処理材が配設してあることを特徴とするオーバーハング部施工構造にある（請求項6）。

10

【0017】

上記面取本体は一体的に形成され、接合部を有しないため、外観意匠性に優れている。
また、上記面取本体は、上記面取意匠面を有しているため、該面取意匠面によって、上記オーバーハング部の前方下端部を面取りしたような外観に形成することができる。それ故、緩やかな印象を与える外観意匠性の高いオーバーハング部施工構造を得ることができる。

20

【0018】

また、上記面取本体は、上述のごとく一体的に形成されているため、上記面取本体の製造にあたっては、接合、接着の工程を必要としない。それ故、上記面取本体は製造が容易であり、その結果、オーバーハング部材の製造が容易となる。これにより、上記オーバーハング部施工構造を安価に得ることが可能となる。

また、上記オーバーハング部材は上記取付板を有し、該取付板における脚板部において、下地材及び構造躯体に上記オーバーハング部材を固定することができる。そのため、上記オーバーハング部材を容易に施工することができる。

【0019】

以上のごとく、本発明によれば、施工容易かつ外観意匠性に優れたオーバーハング部施工構造を提供することができる。

30

【0020】

【発明の実施の形態】

上記第1の発明（請求項1）においては、上記取付板は、例えば厚み0.3～1.0mmの金属板を折り曲げ加工してなる。また、該金属板の材質としては、例えば、メッキ鋼板、ステンレス鋼板等を用いることができる。また、上記取付板は、アルミや樹脂等の押出成形等によって形成することもできる。

【0021】

また、「一体的に形成」とは、複数の部材を接合して形成することなく、例えば、一体成形により形成したり、一体成形体等を切断、切削加工して形成したりすることをいう。以下においても同様である。

40

なお、本明細書においては、上記オーバーハング部材を施工した状態において、上、下、左、右となる向きを、それぞれ、上、下、左、右として表す。

【0022】

また、上記後方脚板部は、該後方脚板部の後端よりも前方に、上記建物の軒天材の前端面を当接させることが可能な軒天当接板部を、上方に向って立設してなることが好ましい（請求項2）。

この場合には、上記軒天材を上記オーバーハング部材の取付け後に、容易に固定することができる。

【0023】

50

また、上記取付板は、上記後方脚板部の上方に、上記建物の軒天材の前端部を収容するためのソケット部を形成してなるものであってもよい（請求項３）。

この場合には、上記軒天材が、上記ソケット部を介して上記オーバーハング部材の後方脚板部を支持することとなるため、上記オーバーハング部材の固定力が向上する。また、上記軒天材の前端面の位置が多少前後にずれても、外観等に影響を与えることがないという利点もある。

【００２４】

また、上記後方脚板部は、上記軒天当接板部又は上記ソケット部よりも前方に、通気及び水抜きのための開口穴を形成してなることが好ましい（請求項４，請求項９）。

この場合には、上記開口穴から上記外壁板の後方へ空気を導入し、通気性を確保することができる。また、万一上記外壁板の後方に雨水が浸入した場合にも、この雨水を上記開口穴から排出することができる。

これにより、上記外壁板、構造躯体等の腐食、劣化を防ぐことができ、耐久性に優れたオーバーハング部施工構造を得ることができる。

【００２５】

また、上記上方脚板部は、上記固定板部との間に、前方へ突出した横目地用突出部を設けてなることが好ましい（請求項５）。

この場合には、上記面取本体を、取付板における正確な位置に固定することができる。また、上記オーバーハング部材を施工するにあたり、該オーバーハング部材の上方に配設される外壁板を正確な位置に施工することが容易となる。

【００２６】

次に、上記第２の発明（請求項６）において、上記オーバーハング部材の面取本体は、上記外壁板と同質の材料からなることが好ましい。これにより、上記オーバーハング部において、外壁板とオーバーハング部材とが連続した外観を表出し、より外観意匠性に優れたオーバーハング部施工構造を得ることができる。

また、上記目地処理材としては、例えば、シーリング材を用いることもでき、乾式のドライシール部材を用いることもできる。

【００２７】

また、上記後方脚板部は、該後方脚板部の後端よりも前方に、軒天当接板部を、上方に向けて立設してなり、該軒天当接板部に上記軒天材の前端面を当接させてなることが好ましい（請求項７）。

この場合には、上記軒天材を上記オーバーハング部材の取付け後に、容易に固定することができる。

【００２８】

また、上記取付板は、上記後方脚板部の上方にソケット部を形成してなり、該ソケット部に上記軒天材の前端部を収容してあってもよい（請求項８）。

この場合には、上記軒天材が、上記ソケット部を介して上記オーバーハング部材の後方脚板部を支持することとなるため、上記オーバーハング部材の固定力が向上する。また、上記軒天材の前端面の位置が多少前後にずれても、外観等に影響を与えることがないという利点もある。

【００２９】

また、上記上方脚板部は、上記固定板部との間に、前方へ突出した横目地用突出部を設けてなり、該横目地用突出部は、上記面取本体の上端面と上記外壁板の下辺部との間に配置されていることが好ましい（請求項１０）。

この場合には、上記オーバーハング部材と、その上方に配設される外壁板との間隔を一定にすることができる。また、例えば、上記横目地用突出部の前面にボンドブレーカを貼着して、その上（面取本体と外壁板との間の隙間部）に適正な量の目地処理材を充填することができる。

【００３０】

【実施例】

10

20

30

40

50

(実施例 1)

本発明の実施例にかかるオーバーハング部材及びオーバーハング部施工構造につき、図 1～図 8 を用いて説明する。

本例のオーバーハング部材 1 は、図 1、図 2 に示すごとく、建物のオーバーハング部の前方下端部に配設される。

【0031】

図 1、図 3 に示すごとく、該オーバーハング部材 1 は、一体的に形成された面取本体 2 と、該面取本体 2 に固定された取付板 3 とを有する。

上記面取本体 2 は、図 1、図 4 に示すごとく、上記オーバーハング部の外側に前方下方を向いて配される面取意匠面 2 1 と、該面取意匠面 2 1 の反対側に形成された背面 2 2 とを有している。 10

【0032】

上記取付板 3 は、図 3、図 5 に示すごとく、上記面取本体 2 の上記背面 2 2 に固定する固定板部 3 1 と、該固定板部 3 1 の上端から上方に延設された上方脚板部 3 2 と、上記固定板部 3 1 の下端から後方に延設された後方脚板部 3 3 とを有する。

【0033】

図 1、図 4 に示すごとく、上記面取本体 2 は、上記背面 2 2 の上端において前方へ向って形成された上端面 2 2 1 と、上記背面 2 2 の後端において下方へ向って形成された後端面 2 2 2 とを有する。また、上記面取本体 2 は、上記面取意匠面 2 1 の前端において上方へ向って形成された前端面 2 1 1 と、上記面取意匠面 2 1 の下端において後方へ向って形成された下端面 2 1 2 とを有する。 20

【0034】

また、図 1、図 3、図 5 に示すごとく、上記後方脚板部 3 3 は、該後方脚板部 3 3 の後端よりも前方に、上記建物の軒天材 4 3 の前端面 4 3 1 を当接させることが可能な軒天当接板部 3 4 を、上方に向って立設してなる。

また、上記後方脚板部 3 3 は、上記軒天当接板部 3 4 よりも前方に、通気及び水抜きのための開口穴 3 3 1 を形成してなる。該開口穴 3 3 1 は、図 3、図 7 に示すごとく、所定の間隔をもって複数形成されている。

【0035】

また、図 1、図 3、図 5 に示すごとく、上記上方脚板部 3 2 は、上記固定板部 3 1 との間に、前方へ突出した横目地用突出部 3 5 を設けてなる。該横目地用突出部 3 5 は、断面略コ字状に形成されており、その下面 3 5 2 は上記面取本体 2 の上端面 2 2 1 に対面し、上面 3 5 3 は後述する外壁板 5 の下辺部 5 3 に対面する。 30

【0036】

また、図 1、図 5 に示すごとく、上記後方脚板部 3 3 は、後方に向って若干上方に傾斜して形成されている。

また、上記固定板部 3 1 は、上記面取本体 2 の上記後端面 2 2 2 を含めた背面 2 2 の形状に沿って形成されている。そして、上記面取本体 2 は、上記背面 2 2 において、上記取付板 3 の固定板部 3 1 に、接着剤 1 1 を介在させることにより接着固定されている。なお、面取本体 1 1 と取付板 3 との固定方法は、金具固定等、他の方法であってもよい。 40

【0037】

次に、上記オーバーハング部材 1 を用いた、本例のオーバーハング部施工構造 4 につき説明する。

該オーバーハング部施工構造 4 は、図 1 に示すごとく、上記オーバーハング部の構造躯体 4 1 に下地材 4 2 を介して上記オーバーハング部材 1 及び該オーバーハング部材 1 の上方に配された外壁板 5 とを留め付けてなると共に、上記構造躯体 4 1 の底面に軒天材 4 3 を配設してなる。

【0038】

上記オーバーハング部材 1 は、上記取付板 3 の上記上方脚板部 3 2 において上記構造躯体 4 1 に固定されていると共に、上記後方脚板部 3 3 によって、上記軒天材 4 3 の前端部 4 50

3 2 を下方から被っている。

また、上記面取本体 2 と上記外壁板 5 の外壁側端面 5 3 との間には、目地処理材 4 7 が配設してある。即ち、上記横目地用突出部 3 5 の前面にボンドブレーカを貼着して、その上（面取本体 2 と外壁板 5 との間の隙間部）に適正な量の目地処理材 4 7 を充填してある。該目地処理材 4 7 としては、シーリング材を用いている。

【0039】

上記下地材 4 2 としては、上記構造躯体 4 1 の前面に水平方向に固定された横胴縁 4 2 1 と、該横胴縁 4 2 1 の上方に縦方向に配された縦胴縁 4 2 2 とがある。該縦胴縁 4 2 2 は、図 1 に示すごとく、防水紙 4 4 を介して、釘 4 5 によって構造躯体 4 1 に固定されている。また、上記横胴縁 4 2 1 の前面には、防水紙 4 4、通気用スペーサ 4 6 を介して、上記オーバーハング部材 1 の取付板 3 の上方脚板部 3 2 が配置されている。そして、この部分において、上記オーバーハング部材 1 は釘 4 5 によって構造躯体 4 1 に固定されている。

【0040】

また、上記取付板 3 2 の上方脚板部 3 2 の前方には、上記外壁板 5 が釘 4 5 によって上記横胴縁 3 2 に固定されている。

上記通気用スペーサ 4 6 は、図 8 に示すごとく、上下方向に貫通した通気セル 4 6 1 を複数有している。

【0041】

また、上記後方脚板部 3 3 に立設された軒天当接板部 3 4 には、上記軒天材 4 3 の前端面 4 3 1 を当接させている。なお、該前端面 4 3 1 は、必ずしも上記軒天当接板部 3 4 に当接させる必要はない。

上記上方脚板部 3 3 における横目地用突出部 3 5 は、上記面取本体 2 の上端面 2 2 1 と上記外壁板 5 の下辺部 5 3 との間に配置されている。即ち、上記横目地用突出部 3 5 の上面 3 5 3 は、上記外壁板 5 の下辺部 5 3 に当接し、上記横目地用突出部 3 5 の下面 3 5 2 は、上記面取本体 2 の上端面 2 2 1 に当接している。

【0042】

また、上記オーバーハング部材 1 の面取本体 2 は、上記外壁板 5 と同質の材料からなる。また、本例において、上記面取本体 2 は窯業系材料からなるが、樹脂等の他の材料を用いることもできる。

【0043】

また、上記オーバーハング部の上下左右に関するコーナー部に、上記オーバーハング部材 1 を配設するに当っては、該オーバーハング部材 1 を、図 6 に示すごとく、下面視略 L 字状に配設する。即ち、該オーバーハング部材 1 の一端を略 45° に切断したものを、その切断面 1 2 同士を突き合わせるようにして配設する。

【0044】

なお、図 7 に示すごとく、上記取付板 3 を予め L 字状に形成しておいて、その固定板部 3 1 に上記面取本体 2 を固定してもよい。この場合、通常 of 取付板 3（図 5）の横目地用突出部 3 5 の部分を残して切断して切込みを入れ、残った上記横目地用突出部 3 5 において、折り曲げることにより、上記略 L 字状の取付板 3 を得ることもできる。

【0045】

次に、本例の作用効果につき説明する。

上記面取本体 2 は、上述のごとく一体的に形成されている。そのため、上記面取本体 2 の製造にあたっては、接合、接着の工程を必要としない。それ故、上記面取本体 2 は製造が容易であり、その結果、オーバーハング部材 1 の製造が容易となる。

【0046】

また、上記面取本体 2 は一体的に形成され、接合部を有しないため、外観意匠性に優れている。

また、上記オーバーハング部材 1 は上記取付板 3 を有するため、該取付板 3 を介して上記オーバーハング部材 1 を上記オーバーハング部に容易に施工することができる。これによ

り、上記オーバーハング部施工構造 4 を安価に得ることが可能となる。

【0047】

また、上記面取本体 2 は、上記面取意匠面 2 1 を有しているため、該面取意匠面 2 1 によって、上記オーバーハング部の前方下端部を面取りしたような外観に形成することができる（図 2）。それ故、緩やかな印象を与える外観意匠性の高いオーバーハング部施工構造 4 を構築することができる。

【0048】

また、図 1 に示すごとく、上記取付板 3 の後方脚板部 3 3 は、上記軒天材 4 3 の前端部 4 3 2 を下方から被っている。そのため、上記軒天材 4 3 の前端部 4 3 2 が外部から見えず、外観意匠性に優れたオーバーハング部施工構造 4 を得ることができる。

10

【0049】

また、上記後方脚板部 3 3 は上記軒天当接板部 3 4 を立設してなり、該軒天当接板部 3 4 に上記軒天材 4 3 の前端面 4 3 1 を当接させてなる。そのため、上記軒天材 4 3 を上記オーバーハング部材 1 の取付け後に、容易に固定することができる。また、軒天材 4 3 が少々短くても、取付板 3 によって前端部 4 3 2 を被覆することができる。

【0050】

また、上記後方脚板部 3 3 は、上記開口穴 3 3 1 を形成してなるため、図 1 に示すごとく、該開口穴 3 3 1 から上記外壁板 5 の後方へ空気 6 を導入することができる。この空気 6 は、上記通気用スぺーサ 4 6 の通気セル 4 6 1（図 8）を通して外壁板 5 の後方に導入される。これにより、オーバーハング部施工構造 4 の通気性を確保することができる。また、万一上記外壁板 5 の後方に雨水が浸入した場合にも、この雨水を上記開口穴 3 3 1 から排出することができる。

20

これにより、上記外壁板 5、構造躯体 4 1 等の腐食、劣化を防ぐことができ、耐久性に優れたオーバーハング部施工構造 4 を得ることができる。

【0051】

また、上記上方脚板部 3 3 は、上記横目地用突出部 3 5 を設けてなり、該横目地用突出部 3 5 は、図 1 に示すごとく、上記面取本体 2 の上端面 2 2 1 と上記外壁板 5 の下辺部 5 3 との間に配置されている。そのため、上記オーバーハング部材 1 と、その上方に配設される外壁板 5 との間隔を一定にすることができる。また、上記横目地用突出部 3 5 の前面にボンドブレイカを介して、適正な量の目地処理材 4 7 を充填することができる。

30

【0052】

また、上記面取意匠面 2 1 は、上記前端面 2 1 1 を有しているため、図 1 に示すごとく、面取本体 2 の面取意匠面 2 1 と、これに隣接して配される外壁板 5 の外壁意匠面 5 1 との面合わせをすることができる。それ故、一層外観意匠性に優れたオーバーハング部施工構造 4 を得ることができる。

【0053】

また、上記オーバーハング部材 1 の面取本体 2 は、上記外壁板 5 と同質の材料からなる。そのため、上記オーバーハング部において、外壁板 5 とオーバーハング部材 1 とが連続した外観を表出し、より外観意匠性に優れたオーバーハング部施工構造 4 を得ることができる。

40

【0054】

以上のごとく、本例によれば、製造容易かつ外観意匠性に優れたオーバーハング部材及びオーバーハング部施工構造を提供することができる。

【0055】

（実施例 2）

本例は、図 9、図 10 に示すごとく、取付板 3 の後方脚板部 3 3 の上方にソケット部 3 6 を形成してなるオーバーハング部材 1 の例である。そして、これを用いたオーバーハング部施工構造 4 は、図 9 に示すごとく、上記ソケット部 3 6 に軒天材 4 3 の前端部 4 3 2 を収容してなる。

【0056】

50

即ち、図 10 に示すごとく、上記ソケット部 36 は、上記後方脚板部 33 の後端から前方へ折り返された底板部 361 と、該底板部 361 の前端から上方へ立設した前板部 362 と、該前板部 362 の上端から後方へ屈曲した上板部 363 とによって形成されている。その他は、実施例 1 と同様である。

【0057】

この場合には、上記軒天材 43 が、上記ソケット部 36 を介して上記オーバーハング部材 1 の後方脚板部 33 を支持することとなるため、上記オーバーハング部材 1 の固定力が向上する。また、上記軒天材 43 の前端面 431 の位置が多少前後にずれても、外観等に影響を与えることがないという利点もある。

その他、実施例 1 と同様の作用効果を有する。

10

【0058】

(実施例 3)

本例は、図 11 に示すごとく、面取本体 2 の背面 22 を、互いに直交する上端面 221 と後端面 222 とによって形成したオーバーハング部材 1 の例である。該オーバーハング部材 1 における取付板 3 の固定板部 31 は、上記面取本体 2 の背面 22 の形状に合わせた形状となっている。即ち、上記固定板部 31 は、上記面取本体 2 の上端面 221 に固定する水平板部 312 と、後端面 222 に固定する鉛直板部 313 とからなる。

【0059】

また、上記オーバーハング部材 1 を用いたオーバーハング部施工構造 4 においては、図 11 に示すごとく、上記取付板 3 の水平板部 312 の上面に、下地材 42 としての縦胴縁 421 の下端部 423 を当接させている。また、上記取付板 3 の上方脚板部 32 は、上記縦胴縁 421 を介して構造躯体 41 に固定してある。

20

なお、本例においては、横胴縁は配設していない。

その他は、実施例 1 と同様である。

この場合にも、実施例 1 と同様の作用効果を有する。

【0060】

(実施例 4)

本例は、図 12 に示すごとく、面取本体 2 の前端面 211 の上下方向の幅を大きくしたオーバーハング部材 1 の例である。

上記前端面 211 の反対側には、該前端面 211 に略平行に形成した上部背面 223 が形成されている。この面取本体 2 の形状に合わせて、上記オーバーハング部材 1 における取付板 3 の固定板部 31 が形成されている。

30

その他は、実施例 1 と同様である。

【0061】

この場合には、上記オーバーハング部材 1 における面取本体 2 の上端面 221 の位置が、比較的高い位置に配される。従って、上記面取本体 2 とその上方に配される外壁板 5 との間に配設する目地処理材 47 が、比較的高い位置に配される。

それ故、上記オーバーハング部を斜め下方から、即ち屋外から通常の視線角度で見上げたとき、上記目地処理材 47 が目立ち難い。これにより、一層外観意匠性に優れたオーバーハング部施工構造 4 を得ることができる。

40

その他は、実施例 1 と同様の作用効果を有する。

【0062】

【発明の効果】

上述のごとく、本発明によれば、製造容易かつ外観意匠性に優れたオーバーハング部材及びこれを用いたオーバーハング部施工構造を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】実施例 1 における、オーバーハング部施工構造の縦断面図。

【図 2】実施例 1 における、オーバーハング部の斜視図。

【図 3】実施例 1 における、オーバーハング部材の斜視図。

【図 4】実施例 1 における、面取本体の斜視図。

50

- 【図 5】実施例 1 における、取付板の斜視図。
【図 6】実施例 1 における、コーナー部分に配設するオーバーハング部材の下面図。
【図 7】実施例 1 における、コーナー部分に配設する取付板の下面図。
【図 8】実施例 1 における、通気用スペーサの斜視図。
【図 9】実施例 2 における、オーバーハング部施工構造の縦断面図。
【図 10】実施例 2 における、オーバーハング部材の斜視図。
【図 11】実施例 3 における、オーバーハング部施工構造の縦断面図。
【図 12】実施例 4 における、オーバーハング部施工構造の縦断面図。
【図 13】従来例における、オーバーハング部施工構造の縦断面図。
【図 14】従来例における、他のオーバーハング部施工構造の縦断面図。
【図 15】従来例における、板材及び板片の平面図。
【図 16】従来例における、切断面を形成した一对の板片の断面図。
【図 17】従来例における、切断面同士を対向させて配置した一对の板片の断面図。
【図 18】従来例における、一对の板片を接合した状態を表す断面図。
【図 19】従来例における、出隅柱の断面図。

10

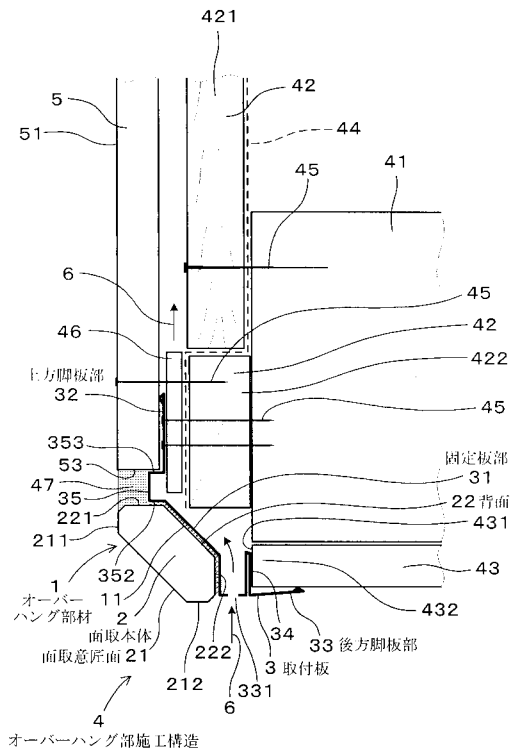
【符号の説明】

- 1 . . . オーバーハング部材,
2 . . . 面取本体,
2 1 . . . 面取意匠面,
2 2 . . . 背面,
3 . . . 取付板,
3 1 . . . 固定板部,
3 2 . . . 上方脚板部,
3 3 . . . 後方脚板部,
4 . . . オーバーハング部施工構造,
5 . . . 外壁板,

20

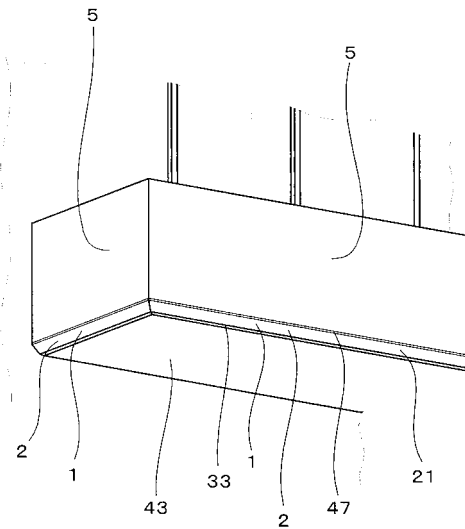
【図 1】

(図 1)



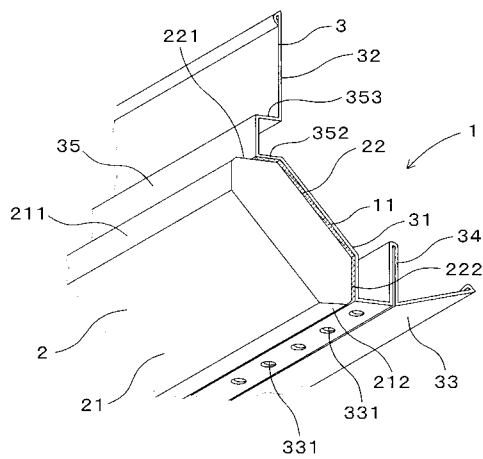
【図 2】

(図 2)



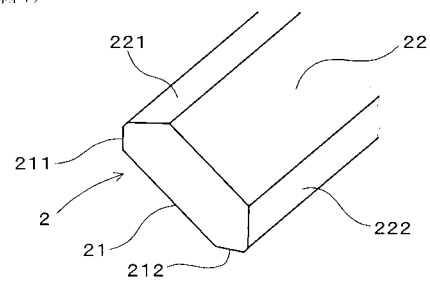
【図 3】

(図 3)



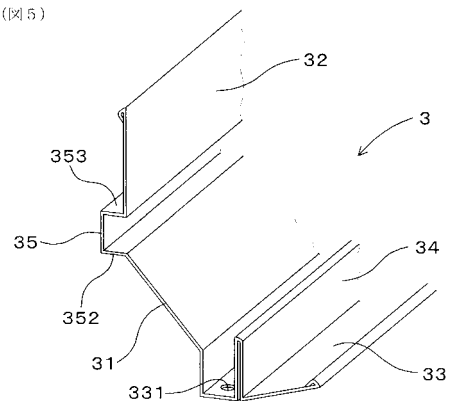
【図 4】

(図 4)



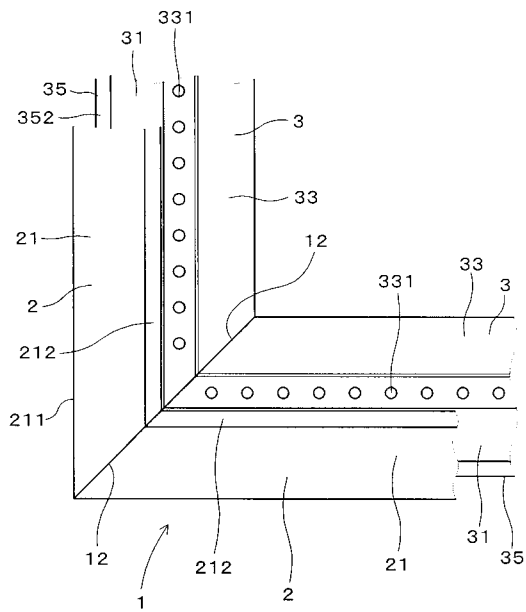
【図 5】

(図 5)



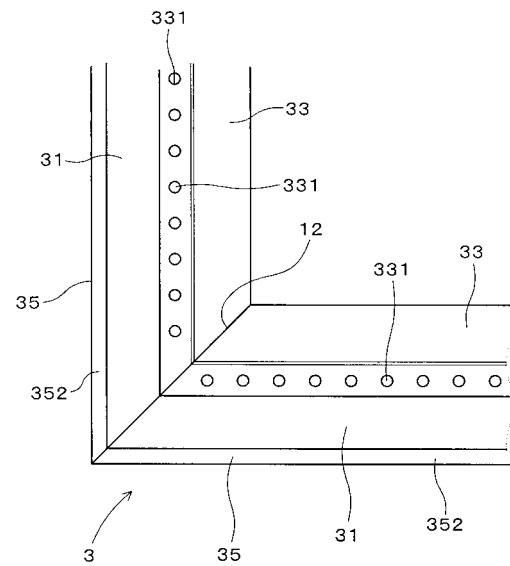
【図 6】

(図 6)



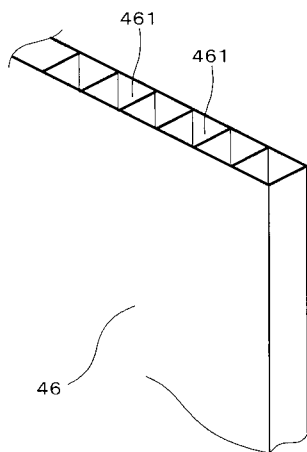
【図 7】

(図 7)



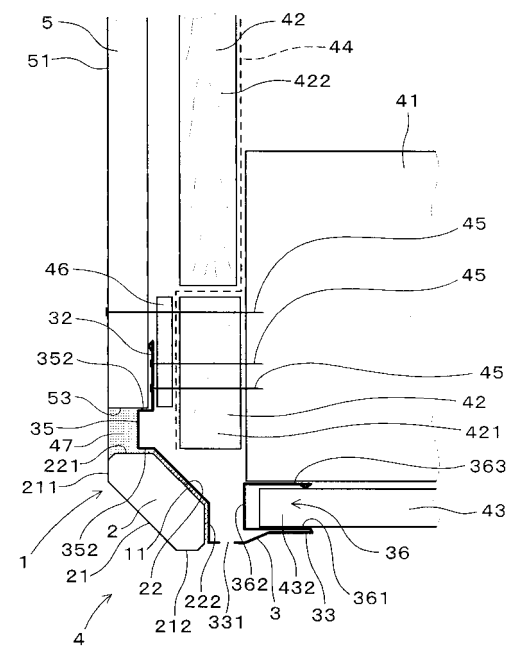
【図 8】

(図 8)



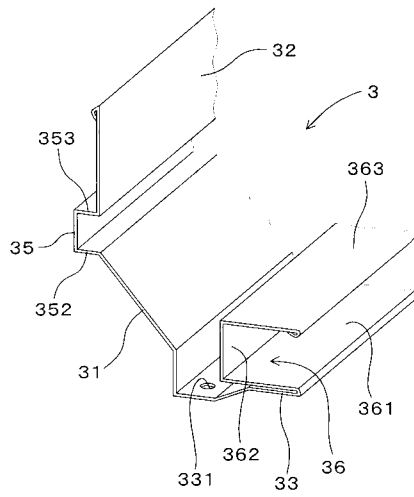
【図 9】

(図 9)



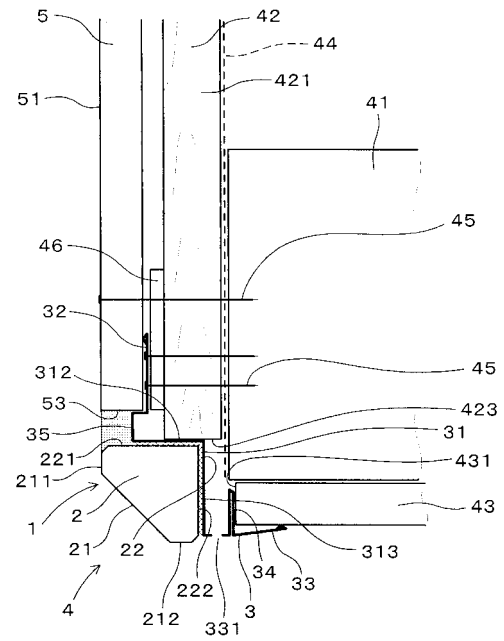
【図 10】

(図 10)



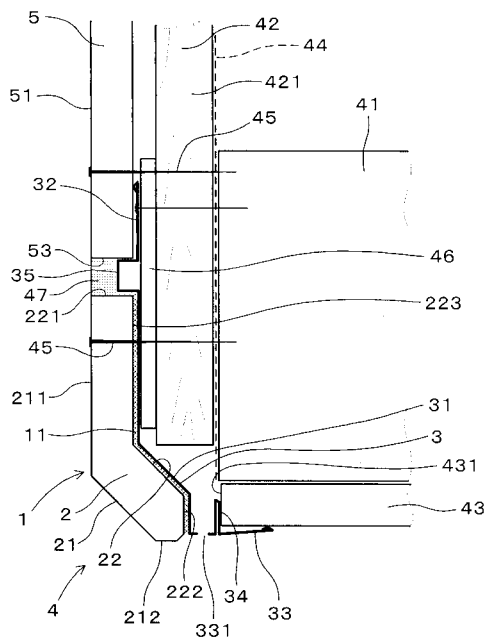
【図 11】

(図 11)



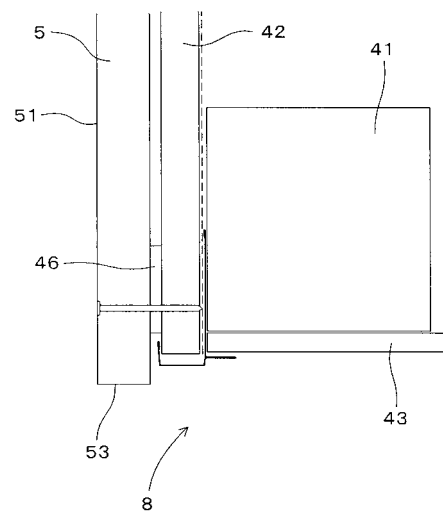
【図 12】

(図 12)



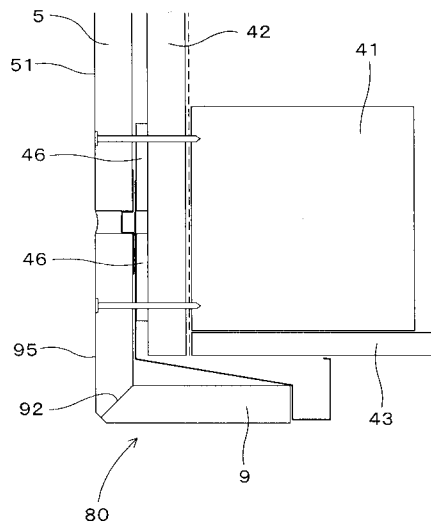
【図 13】

(図 13)



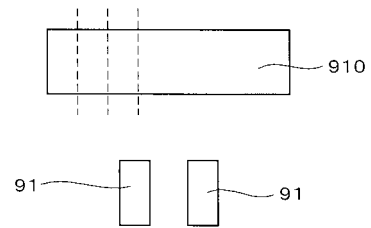
【図 14】

(図 14)



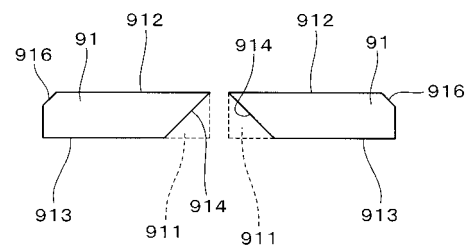
【図 15】

(図 15)



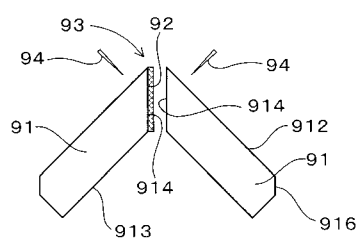
【図 16】

(図 16)



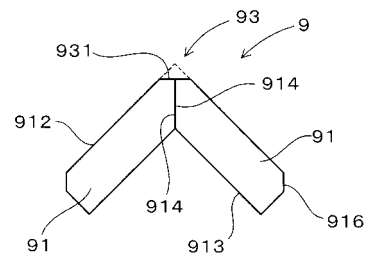
【図 17】

(図 17)



【図 19】

(図 19)



【図 18】

(図 18)

